

## 2 事業とともに歩む持続的成長に向けた知的財産活動

### キヤノンの知的財産活動

知的財産は事業の発展を支えるためのものという考えのもと、10年後、20年後の姿を描き、知的財産戦略を策定・実行しています。

キヤノンでは、これまでになかった技術を生み出し、世の中に新しい価値を提供する「技術優先」の企業DNAが脈々と受け継がれています。たゆまぬ研究開発活動により、基盤技術や独自のコア技術を進化させ続けることで、製品・サービスの価値を向上させる新しい知的財産が日々生まれています。

### 新しい価値の提供の支援

#### 特許の出願・権利化と発明の管理

キヤノンでは、知的財産部門が研究開発部門だけでなく、生産部門、販売部門とも密に連携を取り、一丸となって発明の創出や深掘りをする中で、強い特許の取得を行っています。また、他者が到達するまでに時間がかかる技術については特許の出願をせず、社内で営業秘密として管理しています。

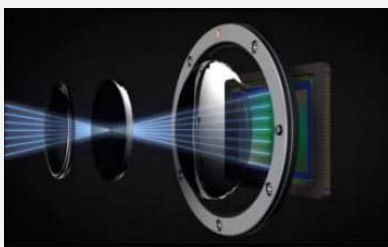
このような経験豊富な人材と技術力を有効活用した知的財産活動を通じて、事業は競争優位性を確保しています。

### 技術の差別化の具体例

独自技術を守る強固な特許ポートフォリオを構築し、競合製品との差別化を図っています。

#### 事例1:

#### EOS Rシステム 撮影領域を拡張させる 新カメラシステム



EOS Rシステムは、新開発のRFレンズの描写性能を生かし、肉眼で捉えられない繊細な色彩のグラデーションまで再現を可能にしました。カメラとレンズの通信性を飛躍的に高め、高画質の連続撮影を可能にし、動きの中にある決定的なシーンを高画質で捉えます。

これを実現するのが、3つのキーワード「ショートバックフォーカス×大口径マウント×新マウント通信システム」です。これらの技術に関する強固な特許ポートフォリオを構築しています。

#### 事例2:

#### 自由視点映像生成システム 新しい映像体験を実現する 映像表現の技術



「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」において、自由な位置や角度から映像を見られる自由視点映像を提供し、ラグビーの魅力効果を効果的に伝えました。

キヤノンは、カメラの設置から撮影、通信、画像処理、ユーザーインターフェースに至るまで、本システムに関わる独自技術について、網羅的に特許の出願・権利化を進めています。

#### 事例3:

#### 光干渉断層血管撮影(OCTA) 眼底三次元画像から血管形態 を描出する画像処理技術



キヤノンの光干渉断層計(OCT)は、眼底の血管の細部まで可視化された高精細画像を短時間で生成し、患者さんや医療従事者の負担を軽減します。これを実現する技術の一つが、ディープラーニング技術を用いて設計した高精細画像からノイズを除去する独自の画像処理技術「Intelligent denoise」です。

キヤノンは、製品に搭載されている発明だけではなく、AIを用いた医療機器に関する特許出願を幅広く行い、より社会に貢献する将来の医療機器を保護する特許ポートフォリオの確立をめざしています。

# 現在

# 未来

## 新たなビジネスに向けた取り組み

### 知的財産ライセンス活動

キヤノンは、新たなビジネスの創出のために、将来の外部環境を予測し、知的財産ライセンス契約において常に先手を打っています。例えば、AI、IoT技術の進展を見据え、異業種とのライセンス交渉に数年前から取り組んできました。強い特許ポートフォリオを活用し、優れた技術をもつ企業と早い段階でクロスライセンスを結ぶことにより、自社の技術と他者の技術を融合し、付加価値の高い製品・サービスを提供していきます。

自社のコアコンピタンス技術を守りつつ、優れた技術をもつ企業と連携するためには、強い特許を多数保有することも必要です。そこで常に特許の価値評価を行い、適切な権利を選択することで、強い特許ポートフォリオを維持しています。米国での特許登録件数ランキングは、2019年は3位に位置し、日本企業において15年連続でトップの位置を保っています。

## 事業の発展に向けた取り組み

### 標準化推進活動

キヤノンは、映像ストリーミング、動画符号化、通信技術などの国際標準の策定に参画し、デジタル映像システムの普及にも貢献してきました。

近年では、IoTの普及により社会インフラ技術となっている通信技術・符号化技術の標準必須特許やその周辺特許の取得に取り組み、異業種企業とライセンスを結んでいます。

このような標準化推進活動を通じてキヤノンの開発の自由度を高めています。

## 知的財産の業界をリードする活動

### LOTネットワーク

自らは事業を行わず、権利だけを行使する、いわゆる「パテント・トロール」の訴訟に多くの企業が苦慮してきました。リスクマネジメントとして、キヤノンは、パテント・トロール訴訟の脅威を抑制するため、Googleなど5社と連携し、2014年に「LOTネットワーク(License on Transfer Network)」を設立しました。

LOTネットワーク加盟企業の保有する特許が会員以外の手に渡った場合、他の加盟企業に特許使用権が無償で与えられ、パテント・トロールによる不当特許訴訟から企業を守ります。会員企業は、製品・サービスの開発に集中することができるようになり、イノベーションの促進に貢献すると考えられます。会員企業数は年々増加し、現在600社を超えています。キヤノンは、今後も各社と連携し、イノベーションの促進に向けた活動を行っていきます。

## 知的財産を通じた環境貢献

### WIPO GREEN

キヤノンは、世界知的所有権機関(WIPO)が運営する、環境保全技術の移転に関する国際的枠組みである「WIPO GREEN」にパートナーとして参画しました。キヤノンのもつ環境保全技術を必要とする企業・団体などに提供することで、知的財産を通じた環境課題の解決に貢献していきます(→P109)。

## お客さまに提供する価値の向上

### キヤノンデザイン・ブランド

キヤノンは、デザインに関しても重要な知的財産と位置づけ、活動を行っています。

「理想的な姿」「機能」「使いやすさ」を追求したデザインによる、ユースシーンに最適な製品・サービスの提供を通じて、お客さまに提供する価値の向上に貢献します。

また、ブランドマネジメントルールによりグループ全体でブランドマネジメントを行い、キヤノンブランドの価値向上に向けて活動しています。



ブランド価値の向上に貢献するキヤノンデザイン